

IFRS対応ソリューション

効率的かつ効果的なIFRSの導入

Solution Overview: IFRS Solution

PwC JapanのIFRS導入サービスは、コンサルティング部門、アシュアランス部門が会計・業務・システムの対応まで一貫したソリューションをワンストップで提供します。

また、PwCグローバルネットワークも活用し、効率的かつ効果的にIFRS導入を支援します。



IFRS任意適用に向けた最新動向

近年、わが国においてIFRS任意適用企業を増加させるため、関係機関から意見書や提言が公表されています。

金融庁は、2013年6月19日に「国際会計基準（IFRS）への対応の在り方に関する当面の方針」を公表し、IFRS任意適用の要件を緩和しています。さらに、2014年6月24日に「日本再興戦略」改訂2014が公表され、この中で金融・資本市場活性化のための施策の一つとして、IFRSの任意適用企業の拡大促進が明記されています。

いずれもIFRSの強制適用については言及されていませんが、任意適用を表明する企業は着実に増加する傾向にあります。また、「日本再興戦略」改訂2014に基づいて、会計基準の選択に関する基本的な考え方を投資家に説明することが求められることを想定し、IFRSの任意適用の可否を含めて検討の準備を開始する必要があります。

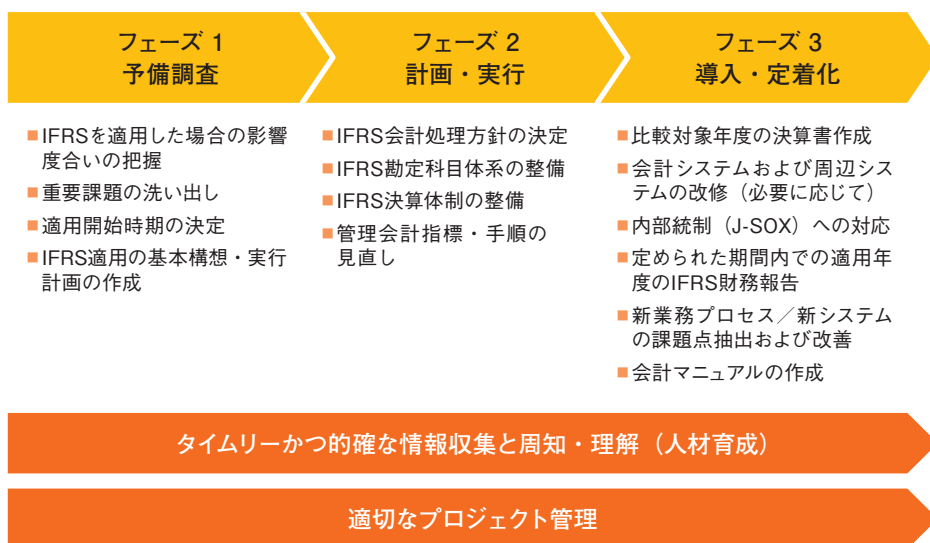
IFRS導入に伴うメリット

IFRSの適用作業とは、単なる会計基準の問題ではなく、企業グループとして統一された会計原則を用いて、より高度な経営管理の実現と情報開示を目指すことにほかなりません。すなわち、新しい会計基準に合わせていく過程で業務や情報システムの標準化を実現し、グループ経営管理体制の再構築を目指す必要があります。経理業務を中心としたプロセスの統一・効率化を通じて、グループ内での決算期の統一と決算の早期化、システム基盤の統一とコスト削減といった改革が、IFRSの導入の中で進められる必要があります。グループ全体での推進には、シェアードサービス化といった間接部門の統合施策も有効です。

- 決算期統一と決算早期化
- 会計システムの統一
- グループ経営管理の高度化

IFRS導入支援サービス

PwC Japanでは、IFRS導入プロジェクトを三つのフェーズに分けて推進しています。



効率的かつ効果的なIFRS導入のためのツール/テンプレート

フェーズ1: 予備調査

▶ 会計基準差異分析シート

IFRSと日本基準の差異を項目ごとに洗い出し、それらに対する企業における確認事項を示したものです。IFRSを適用した場合の影響度や重要課題の把握を、効率的かつ網羅的に行うための分析シートです。

▶ IFRS子会社質問書

IFRSプロジェクトの初期段階において、子会社などに現状会計処理などを調査する際に用いる質問書です。概要調査にて必要な項目を網羅しており、海外の子会社を含んだ調査を効率的に実施できます。

フェーズ2: 計画・実行

▶ 論点メモテンプレート

IFRS導入プロジェクトにあたり典型的に直面する会計上の論点について、その解決から結論に至るプロセスを文書化したテンプレートです。作業指示書となるワークプログラムテンプレートを併用することで、漏れのない効率的な検討が可能です。

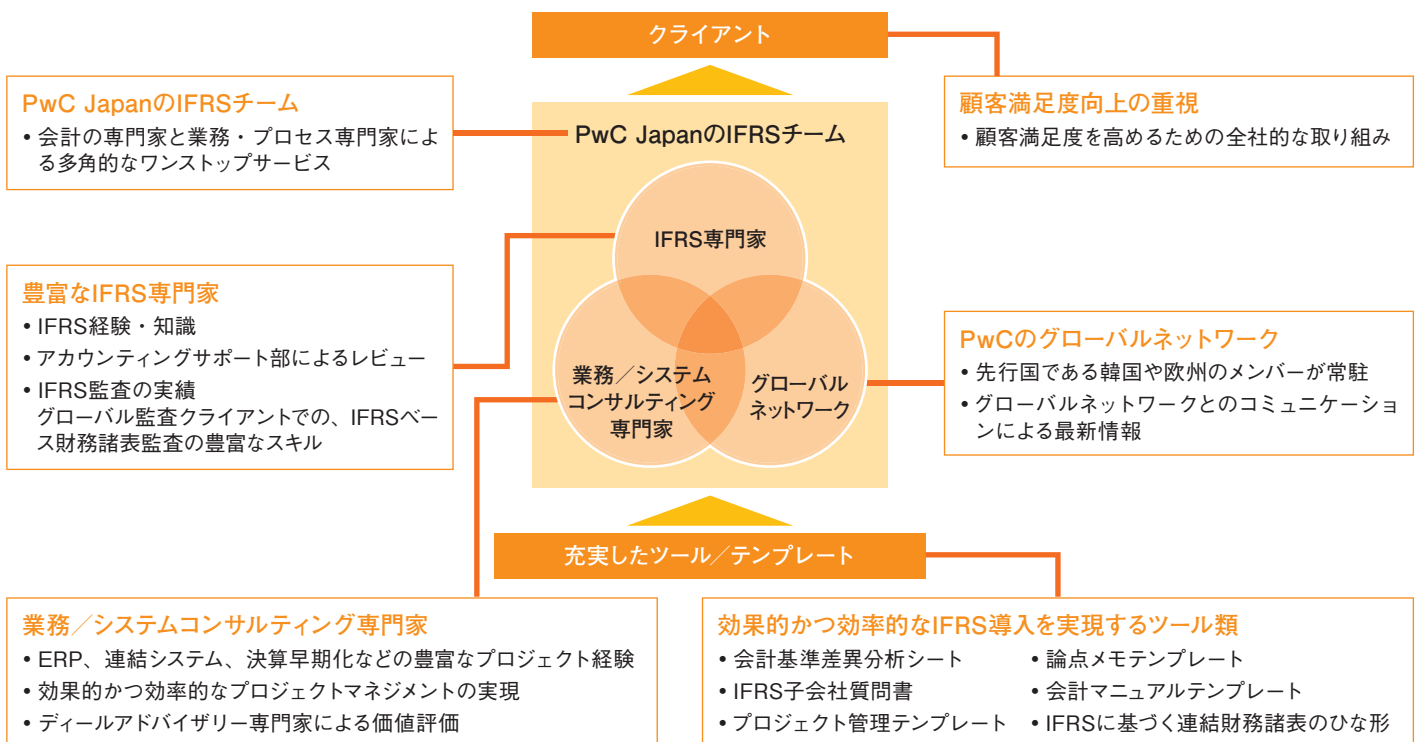
フェーズ3: 導入・定着化

▶ 会計マニュアルテンプレート

会計マニュアルの整備は、社内でのIFRSの定着化において重要なポイントとなります。IFRS、PwCのマニュアル・オブ・アカウンティング (MoA)、海外のIFRS適用会社の会計マニュアルを基に、企業にて実際に使用する会計マニュアルのベースとなるテンプレートを目標として作成しています。当テンプレートを各企業のニーズに合わせてカスタマイズして使用することにより、効率的な会計マニュアルの整備が可能となります。

PwCの強み

企業のIFRS導入をワンストップで支援しています。



PwC Japanのご紹介

PwC Japanは、日本におけるPwCグローバルネットワークのメンバーファームおよびそれらの関連会社（あらた監査法人、京都監査法人、プライスウォーターハウスクーパース株式会社、税理士法人プライスウォーターハウスクーパース、PwC弁護士法人を含む）の総称です。各法人は独立して事業を行い、相互に連携をとりながら、監査およびアシュアランス、アドバイザー、税務、法務のサービスをクライアントに提供しています。

〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1
住友不動産汐留浜離宮ビル
TEL: 03-3546-8650

お問い合わせ
pwcpr@jp.pwc.com